

新潟県

公民館月報 1

平成9年1月号 通巻第527号

特集 ボランティア養成の考え方と実際

視点 ふるさと意識を培う

ひろば 健康な高齢者を目指して

サークル交流 陶芸クラブ本集会(加茂市)

サークルの交流(中里村)

素顔拝見 小林富一(市川町・白井地区) 坂井秀之(下田町)

表紙 瓢湖の朝(水原町)

第 45 回 全 国 公 民 館 振 興 大 会 開 催

国・地方の転換機を迎え

さらなる住民の支持を!!

大会の宣言決議を採択

第 45 回 全 国 公 民 館 振 興 大 会 が 去 る 11 月 28 日 (木)、東 京 ・ 赤 坂 プ リ ン ス ホ テ ル を 会 場 に 開 催 さ れ た。

こ の 公 民 館 振 興 大 会 は、全 国 公 民 館 連 合 会

な ら び に 公 民 館 振 興 市 町 村 長 連 盟 の 共 催 で 行 わ れ て い る も の で、今 年 は 全 公 連 発 足 45 周 年 を 迎 え る 記 念 す べ き 大 会 で あ っ た。

大 会 ス ロ ー ガ ン に は、地 域 の 生 涯 学 習 実 践 拠 点 と し て の 公 民 館 活 動 の 活 発 化!

◇ 公 民 館 建 設 及 び 公 民 館 活 動 へ の 国 の 助 成 の 確 保!

の 二 つ を 掲 げ て い た が、時 節 柄 静 か な 大 会 で あ っ た。

本 県 か ら は、市 町 村 長 (助 役 三 名 を 含 む)、二 十 一 名、教 育 長 三 名、公 民 館 長 等 関 係 者 七 名、

そ の ほ か に、栄 え あ る 表 彰 受 賞 者 七 名 の 計 三 十 八 名 の 参 加 が あ っ た。

全 公 連 会 長 吉 里 邦 夫 氏 が、次 の よ う な 開 会 挨拶 を し て い た の が 印 象 的 だ っ た。

「 社 会 の 一 方 で は 国 ・ 地 方 を



問 わ ず 地 方 分 権 ・ 行 財 政 改 革 を 軸 に 新 た な 転 換 が 伝 え ら れ、他 方 経 済 ・ 社 会 の 混 迷 激 し く、終 戦 直 後 の 世 相 と ま こ と に 似 た 敵 し い 情 勢 下 に あ る。公 民 館 に と っ て も 敵 し い も の が あ る が、住 民 に 支 持 さ れ て い る 限 り 公 民 館 は 不 滅 で あ る。行 政 も 政 治 家 も さ ら な る 公 民 館 へ の サ ポ ー ト を お 願 い し た い」と。

来 賓 に は、折 か ら の

国 会 開 会 中 と い う こ と も あ っ

て、例 年 の 姿 は な く、文 部 大 臣 代 理、衆 参 兩 院 の 文 教 委 員 長 に

よ る 祝 辞 ・ 激 励 の 挨拶 が あ っ た。な お、こ の 振 興 大 会 で 表 彰

さ れ た 方 々 は、優 良 職 員 表 彰 37 名 (各 都 道 府 県 1 名 が 原 則) 永 年 勤 続 職 員 表 彰 1 4 9 名 の 表 彰

式 が 行 わ れ、栄 誉 を 讃 え た。ち な み に 本 県 か ら は 次 の 7 氏 が 受 賞 さ れ た。

★ 優 良 職 員 表 彰 受 賞 者
梶 瑤 子

新 潟 市 東 区 公 民 館 長
★ 永 年 勤 続 職 員 表 彰 受 賞 者
渡 辺 誠 一

亀 田 町 公 民 館 副 館 長
早 川 浩

燕 市 松 長 公 民 館 長
熊 谷 半 一

燕 市 小 池 公 民 館 長

公 民 館 振 興 市 町 村 長 連 盟

理 事 ・ 代 議 員 会 開 催

全 国 公 民 館 振 興 大 会 修 了 後、三 時 三 十 分 前 か ら、同 じ 赤 坂 プ リ ン ス ホ テ ル 内 で 会 場 を 移 し、公 民 館 振 興 市 町 村 長 連 盟 (略 称 公 振 連) 理 事 会 ・ 代 議 員 会 が 開 催 さ れ た。

議 事 は、平 成 7 年 度 事 業 報 告 及 び 収 支 決 算 報 告、平 成 9 年 度 事 業 計 画 及 び 収 支 予 算 案 に つ い て、原 案 と お り 可 決 決 定。

黒 崎 純 子

柏 崎 市 高 出 公 民 館 指 導 員
小 柳 出 美 子

柏 崎 市 南 齋 石 公 民 館 指 導 員
金 子 美 枝 子

柏 崎 市 黒 堀 公 民 館 指 導 員、
な お、恒 例 の 大 会 宣 言 ・ 決 議

で は、(1) 公 民 館 の 施 設 整 備 に 対 す 国 庫 補 助 金 の 確 保、(2) 公 民 館 活 動 等 の よ り 一 層 の 活 性 化 を 図

る 地 域 社 会 教 育 活 動 総 合 事 業 に 対 す る 国 庫 補 助 金 の 確 保、(3) 公 民 館 活 動 充 実 の た め の 地 方 交 付

税 積 算 の 改 善、(4) 公 民 館 職 員 の 充 実 及 び 専 門 制 確 立 を は じ め と

す る、公 民 館 振 興 の た め の 諸 制 度 の 整 備、の 4 点 を 掲 げ、全 員 一 致 で 採 択 さ れ た。

そ の 他 の 議 案 で は、役 員 (監 事) の 補 欠 選 任 案、大 会 宣 言 決 議 文 の 処 理 案 に つ い て は 執 行 部 に 一 任 と な る。

最 後 に、公 振 連 の 活 性 化 策 に つ い て 検 討 の 必 要 あ り と い う 意 見 が 出 さ れ、今 後 検 討 し、原 案 が 提 出 出 来 る よ う 検 討 す る こ と で 了 解 さ れ 解 散。

県社会教育委員会会議報告抄

会長 今井昭友



会議報告抄

十二月四日(第)第二回県社会教育委員会が開催された。

最初に、原田議長から十月下旬、水戸市で開かれた全国社会教育委員研究会についての報告があった。

次に、前回会議の資料要請事項を事務局から説明。①県内市町村の公民館の概要、②県内学校管理職のうち社会教育主事有

資格者の現状、③本県公民館における事業実態分析について。若干の質疑応答を交わし、続いて、桑原委員より提案があり、去る七月に開催された県公連主催による県公民館大会のテーマ

「生涯学習社会をめざした公民館の役割を考える」が、当社会教育委員会における議題を話しあうのにふさわしい資料として

「生涯学習社会をめざした公民館の役割を考える」が、当社会教育委員会における議題を話しあうのにふさわしい資料として

今回は、公民館を取り巻く現状の把握に終始したが、一歩一歩「活性化」に向けての話し合いの方向が見えてきつつあるように思われる。

て、共通認識を深めるための説明がなされた。
① これによって、公民館の事業に関する、活性化の方向を見いだすべく話し合われた。
② 次の、市町村の生涯学習推進のための専門的職員(社会教育主事等)の充実策を含めた、職員問題について話し合われた。

視点

「ふるさ」とには、生まれ、三条で学び、自分を育ててくれた忘れ得ぬ思い出があり、その思い出は、人が生きていく上の大きな支えとなり、自信となつて将来に息づいていくものです。

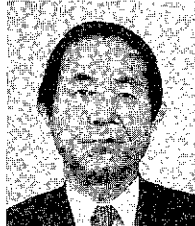
ふるさと意識を培う

遠藤 征

「ふるさ」とは、生まれ、三条で学び、自分を育ててくれた「ふるさと」である、と、自信をもって言える人間に育てたいと、常々「ふるさと夏祭り」として、公民館主催で、学校と地域が連携して「ふるさと夏祭り」と

でいる地域について、は、分かっているようで分かっていないという状況があります。忙しい世の中ですが、地域のもっているアイデンティティを見直してみる必要性を痛感します。

子どもたちが大人に



現任校の学校正面には、三条市中央公民館の分館があり、生涯学習の場として実績を積み重ねています。学校も「地域の文化センター」としての役

「ふれあい文化祭」を開いています。子どもたちも地域の人も「いい顔・いい声・いい心」が大きく膨らむ楽しい行事です。しかし、自分の住ん

健康な高齢者を目指して

岸野力雄



特別養護老人ホームを建設することになり、県内の先進地、近

県の優良施設の視察に参加しました。何れの市町村も人口の18%から20%が65歳以上の高齢者になり年ごとに増加の傾向にあることとでした。

ひろば

訪問した施設はどれも近代的に完備した立派な建造物でしたが、入居者の表情や動きの中から、ふと、次のことが脳裏をよぎりました。それは明治、大正、昭和の三代にわたり、戦争あり、食糧難の中での育児、家業のやりくり、複雑な地域の習慣の中で、文字通り休む暇もなく、国のため、家のため、子供のためにと自分の楽しみ等は全く考えずに働くことが「生きがい」と我身にいきかかせて、すべて我慢、我慢で、給油もせずに使え果たしてしまつた機械のように見えました。

さて、昭和初期に生れた私達も間もなく高齢者の仲間入りをする。同じ年寄りになるにも、笑顔で明るい挨拶ができる「歓迎される高齢者」になるよう頑張りたいものがあります。高齢者は年々多くなり、自分自身の健康管理に積極的に関心をもって取り組むことが大切。現在とは異なつた形の介護技術の研究が進むものとは思いますが、自分のことは自分でできる高齢者になりましょう!

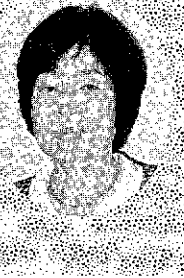
(湯沢町公民館運営審議会委員)

挑戦(1)

考え方と実際

講義抜粋～

桜井照子



はじめに

住民参加から住民参画型社会を迎え、生涯学習社会形成の鍵を握るボランティア活動への支援は、公民館においても不可欠の事業になると思われる。

そのため、当県公連の新規事業として「ボランティア育成事業の考え方とプログラミング」についての研修を実施した。その際の講義の要約である。

××××××

ボランティアの受け入れの場合、最も注意しなければならぬのは、①ボランティアは決して職員の補助的要員ではないこと。②ボランティア活動は自己

実現の営みであって、「一人に何かをしてあげる」という「施し」の感覚は禁物という二点である。このことを根底に据えて、ボランティア養成講座のプログラミングについて、講義の要点を紹介する。(文責編集部)

一、生涯学習ボランティア講座のいろいろ

(1) 学習ボランティア養成講座
これは、文部省認定の社会通信教育の中のボランティアコースを各自が独自に受講し、月一回のスクーリングを公民館で行うという組合せのものです。(表1のプログラムは、スクーリングの部分です)

このプログラムで留意している点は、①全体として、仲間づくり

くり力を入れていくこと。②したがって、各回とも話し合いの時間を取るように配慮しました。③施設見学を2回目に行ってきたのも、施設の見学よりも仲間づくりを重視している結果で、たとえば、バスの乗り降りや車中での話し合いなどを仲間づくりの場にするため。④学習は大学の先生の理論だけでなく、体験者の話や実践活動を取り入れるなど、講座終了後の活動につなげていけるように工夫しています。

(2) 青少年ボランティア養成講座

若い人たちに、もっとボランティアに参加してもらいたいという願いで毎年行なっています。これまでは、障害者の介護と

か車椅子の扱い方、視覚障害者の誘導の仕方など、福祉に関するボランティアのコースを行ってきましたが、昨年から「障害者スポーツ」に焦点を当ててプログラムを組んでいます。(表2参照)

たまたま障害者施設の職員が公民館に転動してきたので、その職員のアイデアを採用したものです。このプログラムでの留意点は、障害者が行いイベントに合わせて養成講座のプログラムをセッティングすることで、ボランティア活動の実践が出来ることとなります。

8回目の「ふれあい運動会」について見てください。ふれあい運動会では、車椅子の人がいます。ベッドで寝ているだけの

人も来ています。ですから、養成講座を受講している人たちは、障害者とのふれあいの機会にすると同時に、養成講座の学習にもなるという一石二鳥の体験になります。

この講座から生まれた「タッチ」と言う名の青少年ボランティアサークルが自主的に活動をしています。このサークルのメンバーは、社会人、大学生、高校生、車椅子の人、聴覚障害の人など様々です。ミーティングの時には手話を交えて話し合

いをしていきます。「タッチ」のリーダーは車椅子で活躍している人で、「障害者はいつもボランティアをされる立場にいるけれど、障害者でも自分の出来る範囲でボランティアはできる」と

〈表1〉

「生涯学習ボランティア養成講座」学習プログラム
1 集合学習開催期間 5月24日～11月24日 全7回(他に本日、説明会)
毎月第4金曜日 午後2時～午後4時
但し、7月は第2金曜日と第4金曜日
10月も第2金曜日

2 会場 藤沢公民館 談話室

3 学習内容

開催日	学習課題	学習内容	指導者等	学習方法
5.24	「生涯学習ボランティア」学習とは	通信教育学習の概要	生涯学習ボランティアサークル 会長	助言と話し合い
6.28	施設見学	関連施設等の見学		
7.12	生涯学習について	生涯学習の原理 応用学習と集団学習の基本	昭和音楽大助教授 西村美東士 氏	講義 話し合い
7.26	学習プログラムの考え方を考える	学習メニューの作成 プログラムの作り方 の実務	助言 生涯学習ボランティアサークル	相互学習
9.27	生涯学習と生涯教育	生涯教育論の承諾 生涯学習の意義と動向	玉川学園大教授 白丸克郎 氏	講義 話し合い
10.11	生涯学習ボランティア活動について	学習ボランティアの役割 各々のアドベントを家族へ伝える。活動の方法	生涯学習ボランティアサークル 会長	話し合い
11.23	今後について	学習成果の活用方法	生涯学習ボランティアサークル 会長	話し合い

〈表2〉

青少年ボランティア養成講座学習プログラム

回	月日	課 題	内 容	指導者等	備 考
1	5.13(水)	開講式	開講式	高松伸彦委員	話 合
2	5.20(水)	開講式	開講式	高松伸彦委員	話 合
3	5.27(水)	開講式	開講式	高松伸彦委員	話 合
4	6.3(水)	開講式	開講式	高松伸彦委員	話 合
5	6.10(水)	開講式	開講式	高松伸彦委員	話 合
6	6.17(水)	開講式	開講式	高松伸彦委員	話 合
7	6.24(水)	開講式	開講式	高松伸彦委員	話 合
8	6.30(水)	開講式	開講式	高松伸彦委員	話 合
9	7.7(水)	開講式	開講式	高松伸彦委員	話 合
10	7.14(水)	開講式	開講式	高松伸彦委員	話 合
11	7.21(水)	開講式	開講式	高松伸彦委員	話 合
12	7.28(水)	開講式	開講式	高松伸彦委員	話 合

家庭教育・女性講座など女性の自立を助ける学習のみ、保育ボランティアをつけることにしています。

この講座のプログラム説明は省略します。趣味の講座にも保育ボランティアをつけてほしいという要望があり、そこで、こんな工夫をしました。「自主保育つき籠づくり講座」というのがそれです。

同じ講座を二回行ないました「籠づくり」と「保育」を半々にして、第一のグループが「籠づくり」をしているときは第二のグループが「保育」を、二回目はその逆を、というふうに自分たちで保育ボランティアの役割をしながら趣味講座を行っています。

(7) 図書ボランティア

読み聞かせのボランティアです。これは養成講座を開設したわけではありませんが、好きな人がボランティアとなって、読み聞かせや、紙芝居、パネルシアターなどをやっています。

(8) 将棋ボランティア

子供対象の将棋講座の終了後もつと続けてほしいというので「将棋解放日」というのを毎週火曜日に設定し、その世話をする必要が生じて、ボランティア

を募集したところ四・五人の方が応募してくれまして、交替で指導して下さっています。中に二段の人がいまして、初心者や子供たちに適切な指導をして頂いておられます。(以前将棋講座を開設したとき、指導者に八段の人をお願いしましたが、初心者には難しすぎたようです。)

二、おわりに

質問に答えて、

(1) 施設ボランティアと学習ボランティアとの違いについて

施設ボランティアというところ、公民館の清掃だとか、草むしりなどのサービスと思いがちですが(それらを含めてもいいでしょうが)、公民館事業の展開にあたって、企画の立案や、受付、資料配布、司会、アナウンス、手話通訳、保育、AV機器操作、写真撮影など、直接指導内容に含まれないものをさします。

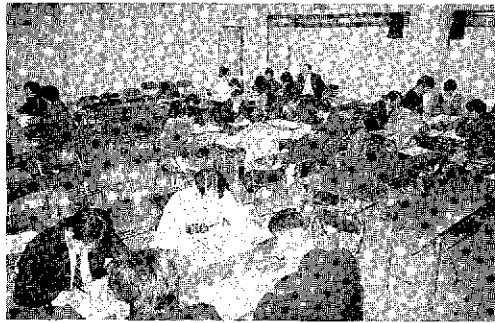
学習ボランティアというのは例えば、古文書の解説や、郷土学習の際の史蹟案内とか、自然科学、芸術文化、趣味・教養、スポーツ等の学識経験や特技・技術の所有者など得意なものを教え合う活動をいいます。

(2) 養成講座の開設と受け入れ体制についての問題

ボランティアをやりたいとい

う人は案外多くいるものです。そのボランティア希望者をどう受け入れるか、ということが問題です。したがって、やみくもに養成講座を開設しさえすればいいというものではありません。

② また、養成講座をやれば



なしにして、あとを公民館がフォローしてやらないと、ボランティアは育ちません。職員は人数が少なく、忙しいのにフォローなど大変でしょうが、面倒でもフォローしてあげると、どんどん育っていきます。

助してやりますと、しばらくするとサークルが自然に自主的に活動するようになります。その時、職員のやることと、サークルのやることとはっきり分けてメリハリをつけることです。依存心を持たせないようにすると、やりがいを持って活動するようにになります。例えば、司会や準備はすべてサークルでやり、公民館では広報のお知らせや、電話の受付(公民館へ電話がくるので)などをする、といった要領です。学習者の知恵とアイデアをいたたいて受講者に喜ばれる事業を展開することができるようになります。

(3) 包括的養成講座とテーマ別養成講座のどちらを?

結論を先に言うと両者とも必要です。両プログラムの実施をお薦めします。生涯学習ボランティア講座の例を紹介します。はじめに「生涯学習ボランティアとは何か」の説明会を開きます。この説明は、職員か前年度の講座修了者が行っています。この説明を聞いて講座に参加するかしないかを決めていただきます。この方法だと、受講者は関心を持った人たちだけに、講座の展開に無駄がなくなり、

(4) 養成講座のマンネリ化防止
近年はボランティアに関心を持つ人が多くなっていますから自分に合ったボランティアの内容であれば幾人かは応じてくれます。だからアイデア次第だと思います。常に工夫して事業を組み立ててください。

工夫の① 障害者のための講座の時のことです。公民館の近くに知的障害者の作業所があり、そこでは、薩摩芋を作っています。草むしりも学習の一つになっていきますが、知的障害者は草むしりが継続してできないのです。そこで、一緒に草むしりをしてくれる人を募りましたところ「草むしり大好き」という方が数人ボランティアになってくれました。

工夫の② 公民館まつりの時に、皆さん自転車で来るものから、自転車置場の整理ボランティアをよびかけましたら、お年寄りが四・五人喜んでやってくれました。このように公民館が声をかければ、応じてくれます。そのポイントは、その人のプラスになることや、やりがいのあるものを考えることです。ボランティアの根本は「人のためにやってやる」というものではなく、「自分が学ばせてもらっている」という気持ちで湧くようにすることです。

サークル交流

土と親しむ心

加茂市陶芸クラブ木窯会

平成七年に発足した陶芸教室も二年目になりました。定員20名に対して60人以上の応募があり陶芸への関心の深さが伺われます。ほとんどの会員が全くの初心者で最初は、「戸惑いの日々でした」がようやく土と親しみ、窯出しの瞬間の感動を体験することができました。

毎週木曜日の例会は、全てを忘れ陶芸に打ち込んでおります。今年には公民館作品展に出品いたしました。それぞれの思い



が作品に現れていたのではないでしょう。陶芸を通して出会えた仲間を大切に、なお一層美しい作品、心が感じられる作品作りに挑戦したいと思えます。なお、年間事業実施は次のとおりです。

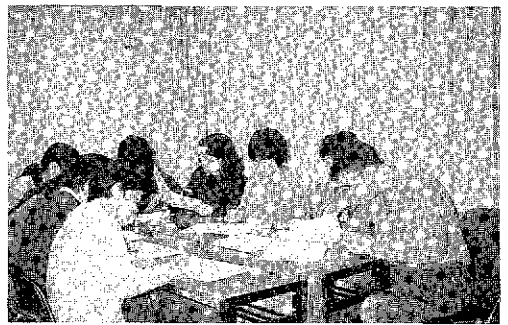
- 一、毎月、毎週木曜日例会実施
- 一、春の窯出し打上げ会「夜桜」
- 一、本年度は加茂山公園内
- 一、夏は陶芸研修の旅を実施
- 一、柏崎市「南山焼」
- 一、市公民館作品展に全員出品
- 一、年間の反省会として「忘年会」

真保薫先生を囲んで
(坂上 和雄 記)

「楽しくてそして学べる」をモットーに
サークルウエンディ

毎週水曜日の夜、公民館の小会議室に賑やかな笑い声が響きます。そう、曜日をもじってウエンディと名付けた我らがサークル。現在イギリス人講師に女性九名の仲間であらゆるさく学習をしています。

「教室」から「サークル」に独立して一年以上が過ぎました。教科書も英語、喋るのも英



話、質問にも自分の知っている単語を駆使せざるを得ないので皆臆つきになることもたまにあります。それはそれでご愛嬌。

答えるのに懸命で一人一人の個性が皆によく伝わります。でも素直な個性がみえる分気が知れ、「細く長くやっつけていこう」という絆が深くなったと言えるでしょう。

20代から40代と年齢を気にせず、時にはティーブレイクタイムをとったりして和気藹藹と学んでいます。たまに私達の英語に、MRジュリアンが日本語で返事を言ったりして、たいへん楽しいサークルです。

(中里村 サークルウエンディ 世話人 上原 昌子 記)

白根市庄瀬・白井地区公民館

主事 小林富一氏

昨年四月に配属。二地区を担当している。彼自身、新卒時に社会教育課勤務を経験しており他課で年輪を重ねパワーアップしての再登場である。



小林富一氏

庄瀬地区では、公園予定地に二年をかけて延長百級、高さ二級の竹垣を地区民のボランティアで仕上げ、白井地区においては小学校の統合を機に二校で行っていた市民運動会を一本化し、地区民の輪づくりに取り組むなど「色白でモチ肌のせい」か粘り強さをいかななく発揮している。

日ごろは物静かで温厚な彼だがカラオケのマイクを握ると豹変する。

舌をかみそりな字余りのヒットチャートを、巻舌を使つてなんなく歌う。さすがに奥さんがピアノ教室の先生だけのことにはある。家庭学習の実践上の成果も十分な彼に、さらなる期待が寄せられている。

(白根市中央公民館副館長 櫻井 文一 記)

素顔拝見

下田村中央公民館 社教主事 坂内秀之氏

総合体育館で足跡を残して、こちらに移ってから四年を経過して、明朗快活に精励している。生涯学習に関わって館内でリーダーシップをとりながら、文化団体協議会から文化財調査研究会等の自主団体まで、幅広く、事務やアドバイスを親切に対応し、労を惜しまず、関係者からの厚い信望を得ている。



坂内秀之氏

時間の切り盛りがうまうま、お茶、俳句などの文化団体にも仲間入りして、こまめにこなして、実際の幅も広い。

一方、微量の酒で顔を紅潮させて、「不肖、わたくしめが坂内の三唱の首頭をとらせて頂きます。」などと言って席を沸かせ、歌わせれば、わが道を行く気概で「一、二、三番を別々の節で堂々と歌いつなぎ、居合わす人々の腸をよじらせる特技も兼備している。

このままの健康な姿で、みんなの期待にこたえ続けて欲しい。

(下田村中央公民館・副参事 坂田 市平 記)



下越公連主催研修終る

21世紀の公民館像を求めて

公運審分科会も特設して

去る平成8年11月12日(火)13日(水)に新潟市万代市民会館を会場に、平成8年度の「下越地区公民館関係役員研修会」が開催された。

◆第一分科会 「公民館における保育問題を考える」

新潟市の公民館職員によるロールプレイングにより、勉強したい母親と、預けられる子どもと、保育ボランティアなどに関する具体的な問題提起がなされた。

41市町村214人の参加者により「公民館のいまを問う」21世紀の公民館像を求めてを総合テーマとして、終始熱心な討論が展開された。

第一日目は、開会のセレモニーに続いて4分科会に分かれての研究協議であった。

話し合ひでは、農村における保育室の必要性や、保育室があることによる、母親どうしの仲間づくり、子育ての悩みの解消などのメリットについて等々、熱心に討議された。

◆第二分科会「障害者の社会参加の促進と公民館の役割」

障害者やその家族が偏見や無理解から、地域で孤立している現状が強く訴えられ、公民館としての対応が提起された。

話し合ひでは、障害者に開かれた公民館となる必要があることと、そのためには、職員が障害者問題を理解すること。さらには、福祉ボランティア養成

講座を開設するなど、福祉意識の高揚に努力する必要があるなどの意見が出されていた。

◆第三分科会「地域の環境問題と公民館」

参加者の全員が積極的に討議に参加できるようワークショップ形式の討論がなされていた。公民館職員も、住民も、地域によって環境に対する意識の違いを指摘された。



提起され、バズセッション方式によって、研究討議を深めた。話し合ひでは、委員自身は、自分に課せられた役割を認識することと、とにかく出席すること。館長自身は、時代の要請に応える的確な課題について答申や意見具中を得られるよう、その運営を工夫する必要がある。以上の要約のとおり全分科会を終了した。

第二日目は分科会報告に続いて人形劇団「ちょうちん座」による環境破壊への警鐘と、子どもたちの未来を照らすメッセージをテーマにした人形劇の鑑賞、ならびに黒岩秩子氏(大地塾主宰)の「共に生きる」と題する記念講演が行なわれ、参加者一同深い感銘を受けて、二日間の研修日程を終了した。

新潟市公連が主管した研修会だったため、どちらかという都市部の公民館の直面している問題が多いくらいがあったが、

表紙解説

瓢湖の朝

「白鳥の湖・瓢湖」には、今冬も五千羽を超える「白妖精」たちが、優美な姿を湖面に浮かべています。

(資料提供 水原町公民館)

公民館の規模に関わりなく活発な論議が交わされ、大きな収穫があった。

(新潟市中央公民館事業係長 月報編集委員 田中 清記)

あとがき

◆明けましてお目出とうございます。今年も、多くの公民館関係者から事務局に年賀状を頂戴しました。ありがとうございます。紙上を借りて謹んでお礼申し上げます。

◆昨年末に、全公連から、平成九年度の公民館施設建設にかかるとの速報が届きました。(詳細は米月号に紹介)かねてから予期していたことですが、残念なことです。

◆今年も公民館にとって厳しい年になりそうです。牛の歩みのような力強さで、スクラムを組んで進みましょう。(上村記)

分科会構成			
第一分科会	司会者	堀 孝子	新潟市東地区公民館長
問題提起者	堀 孝子	新潟市東地区公民館長	
助言者	天小川 昇	新潟市社会教育課長	
記録者	天小川 昇	新潟市社会教育課長	
第二分科会	司会者	藤田 幸一	新潟市公民館長補佐
問題提起者	藤田 幸一	新潟市公民館長補佐	
助言者	石川 幸一	新潟市公民館長補佐	
記録者	石川 幸一	新潟市公民館長補佐	
第三分科会	司会者	服部 尚人	新潟市中央公民館三事
問題提起者	服部 尚人	新潟市中央公民館三事	
助言者	服部 尚人	新潟市中央公民館三事	
記録者	服部 尚人	新潟市中央公民館三事	
第四分科会	司会者	井上 和夫	白根市中央公民館長
問題提起者	井上 和夫	白根市中央公民館長	
助言者	井上 和夫	白根市中央公民館長	
記録者	井上 和夫	白根市中央公民館長	

発行所 新潟県公民館連合会
〒951
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【TEL・FAX (025)224-6073】
発行人 会長 今井昭友
編集人 事務局長 上村 拾二郎
【定価1部150円 年共1,800円】